

<p><b>経営史</b></p> <p><b>Business History</b></p> <p>前期博士課程研究演習 1、前期博士課程研究演習 2 後期博士課程演習</p>	<p>教授</p> <p>中瀬 哲史</p>
<p><b>授業の主題</b></p> <p>本演習では、現在および将来の企業経営のあり方を模索するために、過去の企業経営の事例を研究します。その際、以下の点に留意します。第 1 に、「経営史」のうちの「歴史」について検討します。ここで問われる「歴史」とは、年表のような編年史ではありません。提示者の意図のもとに構成された「歴史的事実」＝ストーリーをもった物語です。そうしたストーリーをもった物語、「歴史的事実」をどのようにして作るのか、どのような歴史的必然性があるのかを考えていきます。最近、グローバル・ヒストリーなるもの、地域史に対する関心が高まっています。こうした歴史学の現状にも留意します。第 2 に、企業経営をめぐる社会的な環境にも留意します。企業経営はそれ自体が単独に存在するわけではありません。企業を取り巻く社会的な環境に影響されるからです。以上のうえで、第 3 に、「経営史」のうちの「企業経営」について検討します。特に、革新的とされた経営行動を意識します。特に、「モノづくり」の面に留意します。</p> <p>今年度も、これまでと同様に優れた経営史（経済史も含みます）に関する古典、方法に関わる議論も取り上げて検討するとともに、現在の企業経営の動向を知るため、経営戦略に関する研究も取り上げて議論します。</p>	
<p><b>到達目標</b></p> <p>出席者の方の専門研究において歴史的な視野を生かしていただけるように演習を作って生きたいと思えます。</p>	
<p><b>演習内容</b></p>	
<p>前期博士課程研究演習 1</p> <p>研究演習 1 では、上述したように、「経営史」のうちの「歴史」と「企業経営」を意識できるように文献を取り上げて研究します。その際、生産と販売の活動を意識すること、そしてどのように社会と結びながら企業経営は展開しているのか、を意識して、「歴史的事実」を捉えたいと思えます。また、可能でしたら、企業ヒアリングにも行きたいと考えています。以上のような手順を通じて「経営史」をおこなう上での素養を身につけていただきます。</p>	<p>科目 NO.CM3SB0008.2</p>
<p>前期博士課程研究演習 2</p> <p>研究演習 1 で培った素養をもとに、研究演習 2 では、参加学生各自に、具体的な企業経営を取り上げていただき、それに関連する先行研究を総括しつつ、独自の視点を身に付けて、修士論文に結実するように演習を進めます。</p>	<p>科目 NO.CM3SB0208.3</p>
<p>後期博士課程</p> <p>前期博士課程で結実した修士論文を土台として最終的には課程博士論文に結びつくように指導します。そのために、まず、改めて追求したいテーマを確定し、そのテーマをめぐる既存の研究状況の中で、自らの研究がどのような意義をもちうるのか、を見出せるように進めます。また、あわせて修士論文を執筆するために学習した研究の方法、方法論に一層の磨きをかけて水準を上げようように進めます。次に、一層の研究能力を高めるため、『経営研究』等雑誌への論文執筆、学会での報告等をおこなっていただき、それらの作業を通じて指導します。</p>	<p>科目 NO.CD3SB0008.5</p>

**事前・事後学習の内容**

授業前に取り上げる本、論文を提示して予習が可能なようにします。授業終了後には学期末のレポート作成につながるように簡単にまとめをつけていただくように指示します。

**評価方法**

演習における発言などの平常点、レポート点等総合的に評価します。

**受講生へのコメント**

前期博士課程演習履修に当たっては、前もって学部レベルの経営史や経営学のうち、基本的と考えられる科目、また産業論等の科目の履修が望ましいです。後期博士課程履修に当たっては、専門の学会への参加をお願いしたいと思います。

**教材**

文献については、授業時に指示します。